

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人慈豊会 グループホームいらかの丘
(ユニット名)	あじさい
所在地 (県・市町村名)	新潟県阿賀野市福永1167番地5号
記入者名 (管理者)	鈴木 祥子
記入日	平成 20年 12月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域に愛され親しみを感じていただけるホームを目指すため、事業所独自の理念があり、玄関・職員トイレ等に掲示してある。</p>	<p>職員は理念を把握し、業務に入る前に理念を確認し、サービスに反映できるように努めている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は、理念の理解に努め、理念を素に入居者の日々の生活を支えられるよう努力している。</p>	<p>常に頭に置き理念を再確認しながら職員間で理解を深めている。又、玄関に掲げているだけでなく、事務所・キッチンにも掲示してある。サービス計画を作成する際も理念を頭におき作成していくよう努めている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関に理念を分かりやすく掲示してある。また入居時には家族に分かりやすく説明を行なっている</p>	<p>理念が皆さんに浸透しているかどうかははっきりとわからない為、管理者や職員が中心となり、理解して頂けるよう働きかけていく必要があると思われる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>出会ったときには、積極的に挨拶を交わし、会話を持つように心掛けている。日頃、米や味噌、牛乳を近隣の方から購入し届けて頂いているが、その際にホームでゆっくり過ごして頂くことは出来ていない。</p>	<p>今後はもっと地域の方と交流を深めていき、立ち寄って頂いた際にはゆっくり過ごして頂けるよう声をかけ、関係を深めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に参加し、地域の文化祭や催しものに参加させていただいている。地域の小・中学校の訪問学習を受け入れている事で、行事に招いて頂く事もある。</p>	<p>地域の方々から親しみを感じてホームを知って頂けるよう、今後いらかの行事にもお誘いし積極的に交流を図りたい。自治会や地域の清掃活動にももっと関わっていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	『認知症の人と家族の会』の方をお呼びし、地域の方々からも参加していただいた。		今後も地域の方々に役立つ事はないか、地域住民を交えて話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、自己評価・外部評価の意義を理解しており、前回の反省点・改善点について話し合う場を設け、改善につとめている。評価を活かし、具体的な改善策を話し合い、実施できるように協力し合っている。		ユニット会議等で話し合いの場を設けているが、改善できていない点もある。今後さらに話し合い、改善できるようにしていく必要がある。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加された方々の意見を聞き、改善できるところは改善している。検討している課題についても、日常業務・ユニット会議内で対応策がないか探っている。		参加して下さる家族はだいたい同じであったり、徐々に少なくなってきた。引き続き沢山のご意見を頂きたいので、家族に声をかけ続けていく必要がある。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が常に市役所に出向き、交流を図っている。		今後も、情報交換の場を設け、サービスの質の向上に努めて行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	2つの制度に関しては管理者より資料を提示され、学ぶ機会を設けている。		制度内容が変わる事もあるため、確認のための学びなおしの機会も必要と思われる。その他、様々な福祉関連制度・法律についても学ぶ機会を設けて行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者から職員へ虐待についての研修が開かれている。		高齢者虐待防止関連法をもとに、利用者が安全に過せるよう支援している。行き過ぎた行為があれば職員間で注意し合い話し合う場を設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に家族へ時間をかけて十分な説明を行っている。また、疑問点・不安は遠慮なく話して欲しいと伝えている。</p>	<p>家族が自宅に帰り、再度契約書を隅々まで目を通すのは難しいと思われるので、契約の時点で、時間を十分にとらせて頂く事を了承して頂き、説明を行っている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から意見・不満・苦情を受けた場合は、管理者・職員で話し合い、解決策を検討している。外部者へ表せる機会は設けていない。</p>	<p>日常の様子から少しでも不満等を抱えている様子が見られたら、迅速に対応している。又、ケースにもしっかり書き入れる事で職員間で問題を把握し、解決できるように話し合い対応している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回家族へ利用者の様子を手紙にして送っている。また、緊急時には、電話で家族に報告している。面会時にも、日々の様子や、体調についても伝えている。</p>	<p>利用者の家族への思いも面会時や手紙で出来る限り伝えている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族から意見を伺い文書に、運営に反映させている。また、苦情を受けた場合は、早急に対応し改善に努めている。家族から意見を頂いたときは些細な事でも文書に残し全職員で検討し、家族に報告している。</p>	<p>今後も、家族との対話の時間をもち、関係を深めて行きたい。今後もさらに、意見・要望を気兼ねなく表せる環境を整えていく必要がある。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議などで職員の意見を現せる場を設け、意見を聞き、対応を検討している。また、日々の業務内でも意見を汲み取るよう努めている。意見や要望も運営者に伝わりやすいよう文書として提出する事ができ、反映されている。</p>	<p>職員の意見が全て運営に反映できていない面もあるが、さらに話し合いの場を設け、検討して行きたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の対応には、規定された人員配置がなされているが、利用者の状態がさまざまなため、勤務に当たる職員で時間をずらしたりしているが余裕があるとは言えない。</p>	<p>人員不足にならないように、職員は体調管理を徹底している。不足になった場合でも、すぐ対応できるようにしている。利用者対応に置いては人員に余裕を持った対応を考えていきたい</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の職員はいるが、その都度それに代わる能力を有する物を採用している。その都度申し送り等できちんと情報を提供し利用者への、ダメージを最小限に防げるよう配慮している。</p>	<p>異動等あった場合は、利用者の不安・負担とならないように、職員同士協力し合っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は、職員に対し必要と思われる研修に参加するよう指示している。その内容を復命書に記し、全職員に伝えている。看護師による内部研修も年に数回行われている。		外部研修に参加した職員が、他の職員の勉強になるよう、発表する機会を設けている。個人的に希望する研修にも参加できるよう案内を出している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホームで管理者会議や交流会を行っている。		職員の交流は定期的に行われているが、今後、もっと行き来が出来るよう、連絡等をこまめに取り、勉強会を開催するなど交流を深めていけたらいいと思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は職員のストレスを軽減するため、いつでも話しを聞いたり、親身に相談を聞く体制をとっている。		なかなか言えない職員もいると思われるので、いい易い環境や場を増やす必要がある。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者・管理者は常に職員の勤務状況を把握している。各自が向上心を持てるよう、些細な事でも声かけするよう心掛けている。		運営者・管理者が出勤している時は、その都度職員の様子を見て向上心がもてるような声かけをしている。職員自信も目標を立て日々努力している。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時点で、状態や要望をよく聞き、良い方法を検討し、状況などをしっかり把握するように努めている。面接時には本人・家族が何を求めているのかしっかり聞き取るように努めている。		1回の面接では信頼関係を築く事は難しいが、本人にとってどうしたら一番よいかを検討していくよう心掛けている
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時点で、家人の現状の様子や、要望などをしっかり聞き今後どのようにしたらよいか相談し、利用するかを検討することを伝えている。		家人の相談を良く聞き、少しでも不安を解消し、要望に応えられるよう心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時どのサービスがその方に適しているかみわけ、グループホーム以外のサービスがよいとされたときは、他のサービス利用の紹介をしている。		本人・家族の希望を伺い、介護支援専門員との連携もしっかり行い一番いい方法を考えている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度か訪問していただいたり、お試して宿泊して頂いてから入居を決めていただいたりとその都度様々な対応をしながら少しでも納得した上で入居して下さるよう工夫している。また、併設しているデイサービス利用し、その際にホームに遊びに来ていただき少しでもなじめるよう工夫している。		今後も色々とお試しや体験をして頂き、納得してサービスを利用していただけるよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々入居者からいろいろなことを学び、一緒に喜怒哀楽を感じれるように心掛けている。		本人や家族から昔の出来事などを聞くことで、得意な事を教えていただいたり、その会話から昔の話を引き出し色々教えてもらっている。今後も人生の先輩として色々教えて頂きたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際や電話があった際は、入居者の様子を伝えたり、相談にのっていただいている。		今後も気軽に話しをしていただけるよう、職員から積極的に話し掛け、よりよい関係を築いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族から今までの経緯をお聞きし家族と利用者の関係がより良いものになるように職員が間に入り支援している。		今後も引き続き両者のよい関係が保てるよう支援していく必要がある。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、なじみの場所へ連れて行っていただいたり、職員の方でお連れしている。なるべく面会にも来て頂き、関係が途切れないよう支援している。		家族の方にも協力していただき 利用者の喜ぶ場所へ沢山お連れしたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	配席を工夫し、気の合う方と一緒に過ごせるよう支援している。		全員が孤立しないようユニット内だけではなく隣隣のユニットやデイサービスへ行くことで孤立を防いでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方のところへ職員が訪問したりするが、入居者様をお連れする機会がなかった。サービス利用終了後でも、家族からの相談には出来る限り応じる姿勢を示している。運営者・管理者が手紙による連絡を取っている。		退去を理由に関係を断ち切らずに、出来るだけ面会に向くなど会う機会を設けていきたい。サービス終了後においても、同じ認知症の家族を持つ側として、現在サービスを利用されている家族の方や当ホームによりアドバイスや意見を頂きたいと考えている。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の希望をくみ取るよう心掛けている。困難な場合は一人一人とコミュニケーションを十分にとり、また家族に話を聞き参考にしている。		日々の記録に本人の声やくみ取れる思いを細かく記入し、全職員が利用者の思いを理解できる様接していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決定した時点で全職員が情報をしっかり見ている。家族からの情報も参考に出来る限り多くを把握するよう努めている。		入居されてから多く会話を持ち、情報では得られなかった本人の暮らし方の希望を知るよう心掛けている。職員同士情報を提供し合い把握に努めている
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が一人一人の生活記録に目を通してから業務に入っている。出来る事に自信を持って取り組めるように支援し、また細かいことでも心身の変化を記録に残し、把握に努めている。		会話の中から新たな発見が出来た時は必ず記録に残したり口頭で申し送るようにしている。記入漏れや申し送り忘れがないように徹底している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家人にもカンファレンスに参加して頂けるよう働きかけている。希望・要望をききプランを作成し、本人の意見・要望も日常の会話から引き出すようにしている。		参加して下さる家族はまだ少ないが、計画を作成する前には面会時や電話で意見を聞いている。常日頃状態・様子を観察し、本人の生活に対する意向などをくみ取るようにしていく必要がある
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度必ずカンファレンスを行い見なおしを行なっている。本人の状態の変化があるときはその都度カンファレンスを行い計画を立て直している。		新規の方や体調変化の激しい方に関しては、一ヶ月もしくはその都度カンファレンスを行い計画を見直すようにしている。担当医の指示を仰ぐ事もあり、家族・本人も含めて関係者と密に連携をとっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアを行い、実施した状況やその時の様子・言葉を第三者が場面を想像できる様に記入している。また、職員が感じ取ったその時の本人の気持ちも記入するようにしている。それを次のプランに活かすようにしている。		何度が記録用紙を変え、一番書きやすく見やすいものを検討し現在の様式に至る。特に大切な事は青字で記録している。数ヶ月に一回センター様式を活用してアセスメントを記入し、本人の把握に努めている。今後のケアに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は家族にお願いしている。どうしても行けないときはこちらでお連れしている		その都度状況に応じて柔軟に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	様々なボランティアの方にきていただいたり、学生の学習の場として受け入れを行なっている。消防訓練など年二回ほどお願いし利用者にも参加していただいている。阿賀野地区の民生委員数十名の施設見学もあり、今後も交流を深めて支援協力を頂きたい。		警察の方にも行方不明のときどのように対応・協力していただけるのか確認する必要がある
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスに移りたいとの要望があれば、管理者が関係者と密に連絡をとり、日々の生活などを伝え情報交換し、移られても生活しやすいよう支援している。		他のサービスに移りたいと要望があればケアマネや他事業所と連携をとり、スムーズに移行できるようにしている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が地域包括支援センターの方々との連絡を取ったり、出向いたりし、助言・指導を頂いている。		今後も密に連絡を取り合い、協働関係を深めて生きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にお願いし本人の昔からのかかりつけ医院に受診して頂いている。本人の状態をかかりつけ医に知らせるため、日頃の様子などを手紙に書いて伝えている。また、職員への助言・指導も頂いている。		かかりつけ医との信頼関係を今後も築いていけるよう密に連携をとっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ばかりではないが、知識を持って診察してくださり、相談に乗って頂いたり、指導を受けたりしている。		本人・家族の希望を伺い、介護支援専門員との連携もしっかり行い一番いい方法を考えている。家族にとって大切な主治医でもあるため、今後も相談に乗って頂いたり、連携をとって頂ける様働きかけていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師、また隣接するデイの看護師より、普段の健康状態から緊急時の対応まで必要時指示を仰いでいる。		共同生活のうえでの注意点を踏まえ、随時研修を開いてもらい、職員のスキルアップにつなげている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、病院へ定期的に足を運び、医師や関係者とこまめに連絡を取っている。退院後においても、その後の過ごし方を医師に相談し、本人や家族にも安心して過ごして頂けるよう配慮している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人になかなか希望が聞けないのが実状だが、終末期に関しては家族とかかりつけ医と共にその人にとって何が一番最善か相談している。		デリケートな問題なので契約の際に終末期のあり方やグループホームで出来る事、出来ない事をきちんと家族に伝えていく必要がある。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者には安全でより良い状態で生活できるよう職員で話し合い家族の意見も聞きながら、ケアを行なっている。必要な事は医師に相談し指示を仰いでいる。		ユニット会議やカンファレンス、又、特変があればその都度話し合いの場を設けている。また、記録に細かく残していき、全職員で把握できるようにしている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関わる関係者間で十分な話し合いの場を設け情報交換を行なっている。		本人の好みや習慣、その方らしい生活を送れるよう家族やケア関係者間で情報交換をしていきダメージを最小限に防げるよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>対応や言葉がけ一つでプライバシーを損ねてしまったり、虐待にもつながる可能性がある。この話にしっかり耳を傾け、人権を尊重した対応を心がけている。</p>	<p>認知症に関する知識を得るため、定期的に研修を取り入れていく必要がある。また、人権擁護、個人情報の採り扱いに関して理解を深める必要がある。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりが何を求めているのか、日々の会話の中から探り、得意な事や好きな事をいつまでも出来るような環境を作る配慮をしている。</p>	<p>常に利用者本人が何を望んでいるのかを探り介護計画を立てるようにしている。少しでも安心して安らげる生活を送れるように支援している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>お一人お一人の気持ちを優先し、職員が入居者に合わせるように日々努めている。又希望があれば、可能な限り叶えられるように業務を調整している。</p>	<p>お一人おひとりを尊重し、決して無理強いをしないように配慮している。自己主張の苦手な方に対しても何をしたいかを探り、希望に添えられるよう対応している。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は家族にお願いしなじみの所を利用して頂けるようにしている。服等は職員も一緒に選んだりしながらおしゃれを手伝っている。</p>	<p>家族が行けないときは職員がお連れしたり、家族の依頼で美容師が訪問する時もある。髪型や服装を誉めるなどしていつまでも身だしなみやオシャレができるよう支えている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>得意としていること・できることを探り、職員と一緒に調理・片付けを行なっている。また、本人が好きなのや昔良く作っていたものを家族からお聞きし喜んでいただけるよう配慮している。</p>	<p>週に一度希望献立の日を設けている。好みの物、昔よく食べていた物、喜んで下さった物をお出ししている。買い物に行かれた際は好みの物があれば購入し献立に取り入れている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒は医師の許可なしにお出しできないので今のところお出ししていない。食べ物に関しては日々の会話、料理本などを一緒に見て好みを探りメニューに取り込んでいる。</p>	<p>個々に好みのものは違うが、全員にきちんと聞きし、お出ししていくようにしている。遠慮される方もいるのでその方の普段からの好みの物を把握しておくようにする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のパターンを把握し、必要な方にはさりげなく声をかけトイレ誘導を行っている。排泄パターンをつかみ、リハビリパンツを使用されている方が、布パンツとパット使用に変わった例もある。		プライバシーに配慮し定期的な声かけはこれからも行っていきたい。その方の状況に合わせて、リハビリパンツ・布パンツ・パットをうまく使い、気持ちよく排泄が出来るよう支援していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日に決まっているが、その方の希望にあわせて柔軟におこなっている。声かけのタイミングを考えながら、その方に合った会話を心が、気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。		入浴に拒否がある方は、その気持ちをくみ取り、安していただけるような声掛けと、羞恥心に配慮した入浴介助を行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の休息のとり方、夜間の入眠の時間は様々である。安心して休まれるような声かけを行いその方の状況に応じて対応している。		夜間起きてこられる方には安心して眠りにつけるような声掛けをしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人のこれまでの経験をいかせる場面作りを支援している。その方が何を得意としているか、何が好きか会話の中から引き出し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。		どんなことをすると楽しんでいただけるか日々会話の中から探り出し、又、家族にお聞きし情報収集に努める。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することは難しいが、個人用のお小遣いをホームの金庫にて預っている。必要なときに自由に使って頂いており、中には支払いができる方もいるので職員見守りのもと、お願いする事もある。職員管理のお小遣いとは別に手元に置いて管理している方もいる。		職員が金銭の保管に関しては管理しているが、希望に応じて職員の見守り・助言のもとに、その方の力に応じて、使用していただける環境を作っている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に外へ行き来していただいている。その方の体調や天候に合わせて職員が付き添う場合もある。毎日食材の買出しにも出掛け、順番にお誘いし、閉じこもりがちにならないように外の空気に触れる機会も作っている。		数分で姿を見失う事も合った。ヒヤリハットも数回出ている。その方の行動範囲をしっかり把握しこまめに所在確認を行なうようにしている。また、自尊心に配慮しさりげない声掛けでホームに戻って頂いている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度全員での外出の日を設けている。個々の行ってみたいところを伺ったり、会話の中で探ったり希望に沿えるようにしている。家族にも誘いの声をかけているが都合が合わず実現していない。		少しでも季節を感じられる場所を選び、お連れしている。家族とも一緒に出掛けられるよう働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会を見つけて家人などへの手紙、年賀状を書いて頂いている。出来ない部分は伝えたい言葉を聞き、職員が代筆したりしている。電話も自由に使って頂いている。		これからも手紙・電話で大切な方々への思いを伝えていけるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問して頂けるようになっている。一緒にリビング・居室で過ごされたり、時折職員も介在し近況を話し合ったり、写真撮って差し上げたりと、過ごしやすい空間作りに配慮している。		少しずつではあるが来所してくださる方が増えてきている。一度きりではなく、今後も来て頂けるよう訪問しやすい空間になるよう努めていく必要がある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていない。内部研修を通して身体拘束に関して全職員理解している。		職員1人ひとりが自分の行なっているケアについて考え見直すことも必要と思われるため引き続き定期的な内部研修が必要である。また、引き続き拘束のないケアを全職員が徹底していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には職員が鍵をかけることは全くしていない。玄関は夜間のみ施錠しているが、日中は自由に外へ出掛けられるように開放されている。		玄関の戸は開閉時にチャイムが鳴るようにしており、普段から自由に外へ行っては頂いているが、こまめな所在確認が今後必要。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々必ず入居者様の所在・様子を確認し、見守りを行っている。外出された際は危険がないように配慮し、さりげなく付き添いをしている。夜間は一時間毎の巡視を行い、安全の確認をしている。		外に出られた方がいてもすぐに声をかけ引き止めず、所在確認・見守りをし、一緒に歩く等している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液や洗剤などは決められた場所に保管している。その方の状況に応じて包丁やハサミを使用していただくが、危険がないよう職員がそばに付き、使用後は確実に回収している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等の対処法として、マニュアル作成、内部研修を行っている。起きてしまった事故等は些細な事でもヒヤリハット報告書を作成、その後の改善策を職員間で話し合い、再発防止を心掛けている。		色々な場面を想定してのマニュアル作成、看護師からの内部研修・消防署員参加のものと火災訓練等もこれからも行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、迅速な対応が出来るよう繰り返し訓練を行っている。		全職員が全てを把握しているとはいえないが、一人ひとりが様々な訓練に参加し、全員が把握できるようにしていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中に昼と夜間の想定で訓練を行ったが、全職員が方法を身につけていない状態だった。地域の方々には協力をお願いしている。		夜間想定避難訓練を定期的に行い、全職員が身につけていけるようにしていきたい。また、地域の方を含めた訓練を行ってみたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの状態も違い、起こりうるリスクも異なる。その都度、家族に説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルを計り、少しの変化も見逃さないようにしている。見た目で見えるような顔色・食欲など少しの変化でも職員同士で情報を共有している。体調不慮があった場合は、すぐに家族・管理者・看護師・リーダーに報告している。		些細な事であっても職員間で同じ情報を共有している。体調に変化が見られたときはすぐに家族に伝え受診をお願いしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬の目的・副作用・用法・用量を全職員が全て把握しているとはいえない。また、薬の飲ませ間違いも起きている。変化があったときにはすぐに医師・家族に連絡している。薬の辞典を用意しており、すぐに調べられるようにしている。		職員一人ひとりが薬の重要性を再度考える必要がある。薬の効果なども今一度確認し、理解を深める必要がある。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く取って頂いたり、味噌汁に糸寒天を使用、繊維の多い物をメニューに取り入れている。買い物や家事を上手く活用し、体を動かす場面を作っている。		排便の有無を必ずチェック表に記載し、排便がないときには水分を多めに取って頂いたり、メニューを工夫している。改善されない方は、家人・医師に相談し、処方された下剤を服用して頂いている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けにて、又、誘導し口腔ケアを行っている。夕食後は入れ歯を預り消毒をしている。歯ブラシ・コップも定期的に消毒している。		入居者自身に、歯磨きの重要性を伝えている。また、職員も口腔ケアの重要性を学ぶ必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食どのくらいに量を摂取したか、水分量はどのくらいかチェックし、その方の状態を把握出来るようにしている。水分摂取量が少ない方については、ml単位で記載し、水分確保の目安にしている。		1日30品目以上取り入れられるようにメニューを作成したり通じが良くなるように寒天、砂糖の代わりにパルスweetを使用し、栄養をバランスよく取れるようにしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、いつでも見直すことができるようにしてある。定期的に看護師から研修を受けている。		マニュアルを置いてあるだけでなく、いざという時にすぐ使用できるよう、道具をそろえてセットしてある。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	肉・野菜・魚で使用する包丁、まな板をわけてあり、毎日消毒している。衛生管理マニュアルがあり安全と清潔、衛生に努めている。調理したものはその日のうちに食指、冷蔵庫内も消毒し、食材を保存している。		野菜を先に切り、肉・魚は後で取り扱う事で食中毒の予防に努めている。消毒の際には食材の確認も必ず行い、常に新鮮な食材を管理・調理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに季節の花を植えて置いたりベンチを置いて家庭的な雰囲気づくりをしている。晴れた日には玄関を開放し、また畑にもベンチを置き、近所の方々や家族ともゆったり過ごせるスペースを作っている。		気軽に訪れていただけるようホームの様子が伝わりやすく、温かみのある玄関周りを心掛けている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節にあった花を飾ったり、季節に合った外出・行事を計画しその写真をリビングに飾って季節感を取り入れるようにしている。		共用の空間には不快な音・光がないように配慮している。畳のスペースを設け、居室以外でもゆったり過ごせる環境を創っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が、居室で過ごされる時は、テーブルとお茶をお持ちし、くつろいで過ごして頂けるよう手伝っている。又、リビングに置いておきの気の合う方同士がお話ししやすいように席を考えている。1人になりたい方は居室で過ごされたり、ソファーでくつろいでおられる。		今後もその方々の状態に合わせた生活スペース作りに力を入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた家具やなじみがあるものを持ってきて頂けるように家族・利用者と相談し、居心地良く過ごせる居室作りを心掛けている。		寝具や家具だけでなく、昔のアルバムなども本人や家族と相談し持って来て頂いている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一年を通して室内の温度調節・換気をこまめに行っている。		温度だけでなく湿度にも気を配っている。冬は加湿器を使用し、皮膚の乾燥予防・風邪予防をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内(トイレ内にも)には手すりがあり、また、玄関にも手すり・スロープがある。出来る限り自立して歩いて生活できるよう、職員間でも安全に気を配っている。		今後その方々によって、歩行状態の変化が見られる可能性もあるため、常に危険因子はないか心配りをする必要がある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの得意な事を把握するように心がけ、職員間でも情報を交換・共有し力を活かせる場を作っている。		どんな場面で力が発揮され、笑顔を見ることが出来たか、また、どんな場面で混乱などが見られたか記録を活用し、常にその人らしい生活が送れるように工夫している。それをケアプランに組みこんで活かしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にはベンチを置き自由に外に出て休んで頂けるようにしている。ベランダにはプランターに花を植えサンダルを置きいつでも外へ出て、外の空気に触れていただけるよう工夫している。		中庭・ベランダに洗濯を干し、自由に干したり取り込んで頂いたりしている。又、畑には遊歩道を作りベンチを置くつるいで過ごして頂けるような環境を作っている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季折々の半を眺めながら自然の中でゆったり過ごせる環境にある。近所住民の方々からも温かく見守って頂き、地域の催し物にも声を掛けて頂き、参加させて頂いている。日々の生活では、一人ひとりの生活歴や性格を尊重しながらその方のお好きな事・その方のペースに合わせる事を一番とし、より多くの笑顔を引き出せるよう取り組んでいる。出来る限り個々の希望を叶える支援を行なうと同時に、全員でも季節感や楽しみを感じて頂けるように外出や外食を計画し楽しんで頂けるよう心掛けている。米や牛乳は地元の方から購入し、野菜はホームの畑で収穫し、食事に取り入れている。開設当初からセンター方式を活用し、ケアプランに活かしている。